

平成30年度 第2回宝塚市自立支援協議会 全体会 議事概要

日 時：平成31年3月22日（金） 13：30～16：00

場 所：宝塚市西公民館 ホール

出席者：23名（全体会委員）

平成30年度専門部会活動結果報告（報告内容については定例会と同一）

※詳細は各部会の活動結果報告書を参照

(1) けんり・くらし部会（地域生活Gr） 報告者：事務局

・ワーキング「精神保健医療福祉連携推進会議」について

主に精神科病院からの退院を考えている人に向けた、宝塚市の社会資源紹介リーフレットを作成するための活動を行っている。当事者の方のリカバリーストーリーや日常生活における困りごととその解決方法（Q&A形式を想定）、地域の社会資源情報や自身の情報を書き込むことができるマイページを内容として盛り込む方針であり、次年度は掲載情報をより精査し、具体的なレイアウトの検討にも入っていく。

・専門部会について

前年度までのテーマ「高齢化」と「医療的ケア」を踏まえ、今年度は部会に当事者の方を招き、「地域生活を送る上で困っていること」についてヒアリングを行った。住居の見つけづらさやヘルパーの不足、医療機関へのアクセスのしづらさといった部分が困りごととして挙げられ、地域生活Grとして取り組むことのできる部分を検討し、次年度以降の協議に活かしていく。

(2) けんり・くらし部会（地域移行Gr） 報告者：事務局

精神科病院に任意入院している方の退院における地域移行支援事業の活用促進を目標に、部会の委員に入っている精神科病院職員からのヒアリングや障害福祉課職員（精神保健福祉士）による地域移行支援事業の制度説明、先進的に地域移行に取り組んでいる他市相談支援事業所の職員を招いての勉強会等を行った。部会での協議で浮かび上がった課題を基に、今後、病院からの移行については相談支援事業所と精神科病院の連携強化やピアサポーターの活用促進に取り組んでいく。次年度以降の部会での協議内容については改めて検討していく。

(3) こども部会 報告者：部会長

たからっ子ノートについて

「たからっ子ノートを手にした方がいいが、使い方がよくわからない」という声が保護者や学校の先生から挙がっていたため、今年度はワーキングを立ち上げ、「たから

っ子ノート活用ガイドブック」を作成した。12月に完成し、市HPからのダウンロードが可能となっている。当事者、学校等の先生、福祉サービス事業者それぞれに向けた説明書きを盛り込んでいる。

#### きょうだい児支援について

1月にこども部会の主催にて、きょうだい児支援をテーマにした講演会を開催した。講師には病気や障害のある子どものきょうだいをサポートする活動をしているNPO法人「しぶたね」より、清田 久悠 氏を招いた。

講演会は大変盛況であり、参加者から集計したアンケートの中には、きょうだい児に対する自身の思いを綴るものもあり、関心の高さを伺うことができた。

#### 放課後等デイサービスの現状について

所属している生徒がどの放課後デイに通っているか、学校側も全て把握しきれていないという現状がある。更なる現状確認と課題整理のため、各学校にアンケート調査を行い、次年度以降その結果をもって対応策を検討していく。

#### (4) しごと部会 報告者：部会長

##### ・協議テーマ「合理的配慮に関するフィードバック」について

今年度は昨年度までのテーマ「合理的配慮」について、各委員が自らの所属機関に持ち帰った結果を部会で順に発表していくという「合理的配慮についてのフィードバック」を行った。ハローワークに所属している委員からは障害のある方が来所した際の窓口での配慮や合理的配慮に関する企業への助言といった取り組み、福祉サービスを展開するNPO法人からは利用者に対する配慮についての報告があった。

##### ・第6回福祉事業所合同説明会について

9月にアピアホールにて開催し、悪天候にも関わらず100名近くの来場者を数え、終始会場は活気づいていた。チラシの配布先を拡大したこともあり、他市からの参加者も増加した。一方で来場者アンケートでは「ブースが空くのを待っている時間が長すぎる」といった声も聞かれたため、次年度以降は改善を図るためのルール作り等も念頭に置いて運営を行う。

##### ・第6回雇用啓発セミナーについて

主に精神障害・発達障害のある方の就労定着のために開発されたWEB上で心身の状態を管理する日報システム『SPIS』を開発した「有限会社奥進システム」の奥脇 学 代表取締役を講師に招いた。会場は超満員となり、企業の経営者や人事担当者も参加する等、障害のある方の雇用定着について企業の関心の高さが伺えた。

- ・共同受注窓口について

「グッドジョブ」の名称で法人格を取得し、11月に総合福祉センターにて設立記念式典を開催した。当事者の方が自らの事業所の活動内容について発表を行うなど、盛況のうちに式典は終了した。企業・行政からの受注も増加しつつあり、今後はしごと部会としてもグッドジョブの動きを応援していく。

#### 【専門部会の報告に関する意見交換】

- ・自身が所属している施設では、地域移行のためにも活用できる体験宿泊の機能を備えているが、他市からの利用がほとんどである。中には三か月ほどの体験宿泊を経て実際にアパートを借り、地域移行に至ったケースもある。三田市や西宮市には地域移行を積極的に進めている相談支援事業所があり、そのような事業所の存在はやはり強力であると感じる。

専門部会の報告では宝塚市でも地域移行を進めるという強い意志を感じたが、そのためには相談支援事業所の積極的な取り組みや、機関同士の連携強化を図ることが必要だろう。

- ・しごと部会の報告の中で、共同受注窓口が立ち上がったことも追い風に、さらに積極的に仕事を受け、授産工賃も上げていこうという目標についての話があったが、授産工賃を上げるための仕事の取り方について何か議論していることはあるか。

⇒共同受注窓口には現在A型の事業所は一か所の参加に留まっており、参加しているのはほとんどがB型や地域活動支援センターである。必然最低賃金を保証する仕事を取ることよりもB型等での工賃の引き上げ・底上げを図ることをメインとしており、今後も積極的に取り組んでいきたいと考えている。

- ・地域移行Grの報告の中で、ピアサポーターに関する議論も出ていたが、力のあるピアサポーターは実践の中でしか生まれないと感じている。実践例を積み重ねていく中で成功した人がピアサポーターになる、というような好循環が生まれることが望ましい。

- ・地域移行については、やはり相談支援事業所と病院がタッグを組んで取り組まなければ難しい問題であると思う。本人の希望がないために移行が進まないという話も出ていたが、精神障害に関して言えば、十分な制度が無かったためにやむなく長年入院生活を余儀なくされていたという部分もある。本人の希望よりも、病院や事業所からの働きかけが重要なのではないか。

- ・しごと部会の中で報告のあった奥進システムの『SPIS』は、宝塚市においても導入できそうなものか。

⇒実際に宝塚市で導入が可能かについては即答できない部分はあるが、大阪府では既

に導入されているという話も聞いているので、そちらの取り入れ方を参考にすることも一つの手だろう。SPI Sがどういうものかについては自社のホームページで、日報の外部支援機関からのコメントのサンプルを見ることができる。導入までの手順についてもリンクが張られているため、そちらを見るのが分かりやすいだろう。

- ・地域移行に関して、当事者の立場では「外へ行ったらどうなるのだろう、何が待っているのだろう」、「住居や仕事はどうしよう」という不安があり、なかなか自分から地域へ出ていきたいと言うことは難しい。ただ、どこかで外へ出たいという気持ちを持っていることも多く、自身も周りから「外へ出ればこんなに楽しいことが待っている」と言われて自立することができた。当事者同士でもそのような話ができたり、関係機関からも地域移行に関して希望が持てるような情報を発信できる環境を整えれば良いと思う。

⇒ピアサポーターが語る自身の退院までの経験を聞き、「自分もできるかも」という気持ちになったというエピソードは聞いたことがある。退院したいと考えている人と支援機関が、より多く出会いの機会を持つためにはどうすればいいのか、今後も考えていきたい。

- ・共同受注窓口が立ち上がったことは非常に喜ばしい。ポスティング業務は大変な面もあるが、街を見て回れることは楽しく、やりがいもあると周りの当事者も言っていた。中には難しい仕事もあるかもしれないが、今後も色々な業務に取り組んでほしい。

⇒ポスティング業務に関しては、市から印刷物の市内全戸配布を請け負い、各事業所での分担のもと見事に西谷地区も含めた全戸配布を成し遂げた実績がある。

また、市内医療機関へのポスティング業務も請け負っており、医師会と福祉事業所の間で連携を図ることが出来ているという点は誇れる部分であると考えている。

- ・当事者団体の会員数が年々減少しており、当事者が実際に何に困っているのか、実状を捉えることが難しくなっている。「声なき声」を把握していく取り組みが必要ではないか。場合によっては声を拾うための新しい部会を立ち上げる必要があるのかもしれない。

⇒障害のある方のトータルケアについて話し合う部会は確かにない。現状で最もそれに近いとすればけんり・くらし部会（地域生活G r）になるかと思う。

新しい部会を立ち上げるとなると、議題の焦点を明確にしていく必要があるため、すぐにとりあえずの約束はできないが、既存の部会の中でもトータルな部分を話し合う余地を作っていく検討はしてもよいと考える。

### 3 その他

市民福祉金廃止に伴う代替施策について 報告者：宝塚市健康福祉部長

#### ① 多機能施設の整備について

想定している機能を整理し、委託に向けた協議を行うことができる法人を選定

していく段階にある。

② 委託相談支援事業所の増加

平成30年度より、これまで3か所であった委託相談支援事業所の数を5か所に拡大した。

③ 特定相談支援事業所の充実

現在市内には民間9か所・公立1か所の特定相談支援事業所があり、今後更なる充実を図っていく。

④ 就業・生活支援センターの充実

市が委託する就業・生活支援センターの相談員を1名増員した。

⑤ 共同受注窓口の整備事業

一般社団法人宝塚市共同受注窓口グッドジョブへの補助金を予算に計上する。

⑥ グループホーム新設補助事業

グループホームの新設にあたり、スプリンクラー設置に関する補助金を計上する。

⑦ 施設整備支援事業

日中一時支援の事業所確保のため、報酬単価の見直しを検討する。

※その他、各要望事項については随時検討していく。